

Retinal vascular inflammatory and occlusive changes in infectious and non-infectious uveitis

感染性および非感染性ぶどう膜炎における網膜血管の炎症および閉塞性変化

Kaburaki T, Fukunaga H, Tanaka R, Nakahara H, Kawashima H, Shirahama S, Izawa H, Komae K, Takamoto M, Soga H, Aihara M.

Jpn J Ophthalmol. 2020 64(2):150-159. doi: 10.1007/s10384-020-00717-4.

網膜血管炎や閉塞性変化はぶどう膜炎の原因診断の指標となりうる可能性がある。しかし、感染性ぶどう膜炎 (IU)、非感染性ぶどう膜炎 (NIU) の各疾患での網膜動静脈炎、血管閉塞の頻度を系統的に調査した報告はない。本研究では、IU、NIU における網膜血管炎および閉塞性変化の頻度を、フルオレセイン蛍光眼底造影 (FA) 写真から後ろ向きに調査した。

対象は、IU または NIU と確定診断された中間ぶどう膜炎、後部ぶどう膜炎、汎ぶどう膜炎 283 例。IU 群には急性網膜壊死、サイトメガロウイルス網膜炎、真菌性眼内炎、細菌性眼内炎、トキソプラズマ網膜炎、結核性、HTLV-1 関連、梅毒性、風疹ウイルス関連のぶどう膜炎が、NIU 群にはサルコイドーシス、ベーチェット病、Vogt-小柳-原田病、HLA-B27 関連ぶどう膜炎、SLE 網膜症、交感性眼炎、乾癬、膠原病関連のぶどう膜炎が含まれた。

その結果、IU 群では NIU 群に比べ、静脈炎、静脈白鞘化、静脈閉塞、動脈炎、動脈白鞘化、動脈閉塞、無血管領域が高頻度でみられた ($p < 0.05$)。両群の陽性率の格差は、特に動脈所見で顕著であった (動脈炎 [57.9% vs 11.2%]、炎症性動脈白鞘化 [33.7% vs 0%]、動脈閉塞 [22.1% vs 3.7%]、各 $p < 0.0001$)。FA での網膜血管炎および血管閉塞、特に動脈でのそれらの所見は、感染性ぶどう膜炎の可能性を強く示唆する。